

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475301071
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家 川崎久地
訪問調査日	平成 20年8月14日
評価確定日	平成 20年 9月12 日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1475301071
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家 川崎久地
所在地	〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22 (電話) 044-850-5622

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒220-0074 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年8月14日	評価確定日	9月12日

## 【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤6人, 常勤換算6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,350円	

### (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	港北メディカルクリニック、日航ビル歯科室、総合川崎臨港病院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所はJR南武線武蔵溝口駅からバスで6分の閑静な住宅街にある。</li> <li>「みんなで一緒に笑って泣いてけんかして喜び合って、地域で豊かに生活する」を理念とし、散歩、行事への参加などを通じて地域に密着し、その人らしく生活することをサービスの方針にしている。</li> <li>介護計画の総見直しは6か月ごとに行っている。毎月、利用者3~4人について夫々4回、本人が同席してケアカンファレンスを行っている。居室担当職員が毎回異なる職員の参加を指定し、多くの職員の意見を反映するように工夫している。家族、医師の意見を介護計画に反映している。</li> </ul>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議で提案された認知症勉強会を実現し、会議をサービス改善のモニター役として活用する第一歩を踏み出している。</li> <li>川崎市内にグループホーム連絡会を立ち上げ、交流を通じサービスの質の向上につなげる計画があったが実現していない。</li> <li>緊急時用の食糧・水・防寒備品等の備蓄は今後の課題である。</li> </ul> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が自己評価表に記入し、ホーム長がフロア別にまとめた。</li> </ul>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の運営推進会議で提案された専門医による認知症勉強会を本年春実施した。</li> <li>昨年10月、今年2月(次回9月予定)に運営推進会議を開催し、情報提供、意見交換をした。メンバーは町内会長、町内会婦人部、地域包括支援センター職員、家族、事業所職員である。</li> </ul>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族懇談会や日常の家族の来訪時に意見、提案を聴取し、「家族対応ノート」に記録して職員間で情報を共有し、スタッフミーティングで検討してサービスの改善に反映している。今までに苦情をうけたことはない。</li> </ul>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のお祭りに参加して神輿の休憩場所を提供し、子供会と共催で進級祝い事業所で開催したり、流しそうめんに参加している。</li> <li>散歩、買い物、映画鑑賞、地域の将棋クラブや卓球クラブへの参加などを通じて、地域と交流している。</li> </ul>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなで一緒に笑って泣いてけんかして喜び合って、地域で豊かに生活する」を理念としている。</li> <li>・散歩、行事参加などを通じて地域と密着し、その人らしく生活することをサービスの方針にしている。</li> <li>・理念を玄関、各階のスタッフルームに掲示している。</li> </ul>		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアカンファレンスでサービス内容を検討するときに、理念に沿っているか否かを判断している。</li> <li>・利用者間のトラブルを仲裁する際に、職員は理念を判断基準にしている。</li> </ul>		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入しており、神輿の休憩場所を提供したり、子供会と共催で進級祝いを行い、事業所で流しそうめんを開催したりしている。また、散歩や買い物などの挨拶など、地元の人々との交流を深めている。</li> <li>・利用者は地域の将棋クラブや卓球クラブ、映画鑑賞に気軽に出かけている。</li> </ul>		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が自己評価表に記入し、ホーム長がフロア別にまとめた。</li> <li>・まとめた自己評価表をスタッフルームに置き、閲覧できるようにした。</li> </ul>	○	外部評価を実施する意義について内部研修を行ない、職員全員が理解し、評価結果からの気づきをサービスの質の改善に活かす取り組みを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年2月に開催し、情報提供、意見交換をし、また、専門医による認知症勉強会の事業所内開催を検討した。メンバーは町内会長、町内会婦人部、地域包括支援センター職員、家族、事業所職員である。</li> <li>・今年度は9月開催を予定している。</li> </ul>		

みんなの家 川崎久地

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所担当者と手続きの確認、相談などの日常的な連携を図り、介護情報の把握に努めている。</li> <li>利用者が通院する際にケースワーカーが同道して支援するなど、協力体制ができている。</li> </ul>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月「一言通信」を発行し、利用者の生活状況、写真、出納帳の写しとレシートを添えて、家族に郵送している。</li> <li>突発事項が発生したときは電話で速やかに家族に連絡している。</li> <li>職員異動の際は必要に応じて居室担当の紹介などを一言通信で触れている。</li> </ul>		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所行事開催に合わせて家族懇談会を開き、また、家族の来訪時に意見、提案を聴取している。</li> <li>出された意見、提案は「家族対応ノート」に記録し、職員間の情報共有をはかり、サービス向上への反映に努めている。</li> <li>今までに苦情はない。</li> </ul>		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホーム長が職員と個人面談をして、希望や悩みを聴取し、働きやすい環境にするように努めている。</li> <li>職員の離職、法人内の異動はあるが、職員は利用者が安心できるように声かけをおこなっており、利用者へのダメージがないように配慮している。</li> </ul>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の職階別研修システムがある。本年6月にフロア長が2週間に亘り法人内事業所の交換研修を受けた。</li> <li>事業所内部研修として昨年9月～11月に、伝達研修、訪問看護師によるノロウイルス対策、糖尿病対策などを行った。</li> <li>昨年末(11月～1月)の川崎市認知症介護実践者研修に参加している。</li> </ul>	○	事務所に毎月3～4件の内部研修、外部研修の案内を掲示しているが、本年は自由参加の取り組みができていないようです。計画的に研修機会を設け、かつ、研修結果を事業所内で周知することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市内のグループホーム連絡会を立ち上げる計画があったが、諸事情があり実現していない。</li> </ul>	○	外部研修の機会を通じて、また、神奈川県グループホーム連絡会への加入などを検討して、川崎市内外の同業者との交流や連携の機会を設け、サービスの質の向上に活かすことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前にアセスメントを十分に行い、また、見学をしてもらい事業所の雰囲気を伝える機会を設けている。 ・入所後は自由に過ごし、徐々に馴染めるようにしている。 ・家族との連絡を密にし、また、馴染みのものを持ち込んで安心して、落ち着いて生活できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は利用者と一緒に過ごし会話をする事に心がけ、押し付けや管理をしないように務めている。 ・職員は利用者から洗濯物干し、たたみ、食事の準備などの作業のコツを学ぶことが多い。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活での会話から利用者の思いを把握し、「連絡ノート」「生活記録」に記入して、職員間で情報を共有化している。 ・意思疎通が困難な利用者の場合は、表情、仕草などから思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎月4回、利用者3～4人毎に本人が同席してケアカンファレンスを行っている。居室担当職員が異なる職員の参加を指定し、職員の意見が偏らないように、また、多くの職員の意見を介護計画に反映するように工夫している。 ・家族、医師の意見を介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・総見直しは6ヶ月ごとに行っている。見直した介護計画に家族は同意の捺印をしている。 ・見直し時期に至る期間中に起きる変化に対しては、医師、家族と連絡を取り、必要に応じて介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族の都合が悪い場合は通院支援を行っている。 ・家族等からの介護に関する相談に応じ、地域包括支援センター職員、その他関連部署に相談をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・港北メディカルクリニック(内科・月2回往診)、日航ビル歯科(月4回往診)、総合川崎臨港病院を協力医療機関としている。 ・家族の希望により、かかりつけ医を指定する利用者もいる。 ・利用者・職員は年1回(夜勤に従事する職員は年2回)、健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・「重度化した場合の対応に係る指針」があり、また、「医療連携体制同意書」に基づいて、本人・家族の同意のサインをもらっている。医師、家族、事業所間の連携を密に行い、重度化した場合の適切な対応を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・運営マニュアルに基づき、個人の尊厳を守り、プライバシーを損ねる言葉掛けをしないように注意を喚起している。職員の対応に問題があれば個人面談・フロア会議等対応を振り返り、確認し合っている。 ・業務連絡等の記録面では個人名は避けイニシャルで記録し、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人ひとりの意向や体調面に配慮した日々の行動を支援している。散歩の時間帯や就寝時間・入浴など本人のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の自主性や得意分野を大事にして、皿出し・盛り付け・片付け等の担当を決め、職員と一緒に取り組んでいる。専門調理師不在の週二日は食材の下準備から調理までを職員と一緒にやっている。 ・おやつは好きなものを近所へ買いに行き、また、職員と一緒に作って楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週3回の入浴を目安にし、時間帯は定めず利用者希望を優先している。 ・銭湯を希望する利用者もいて、職員が同行支援している。 ・入浴を嫌がる利用者に対しては無理強いせず、本人の望むタイミングを見計らって誘導している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・食事・洗濯・掃除等は利用者の自主性・得意分野を生かして役割分担を決めている。責任を持って行う事が利用者の生きがいになっている。 ・家庭菜園で野菜作りをし、趣味を生かして地域内の卓球クラブ・将棋クラブへ参加をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者は週2～3回散歩などの外出をしている。職員の買い物のときに、希望する利用者が同行している。 ・買い物・理美容等の希望があれば外出支援をしている。 ・事業所行事として、初詣・花見・バスハイクなど、毎月外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・各フロアのドアは施錠がなく自由に出入りできるが、2階フロアのドアに音が出る吊りさげ器具を付け、出入りの確認ができるようにしている。 ・玄関ドアは防犯、安全のために施錠している。 ・居室は本人の意思により内側から施錠出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防避難訓練を職員、利用者、消防署職員が参加して年1回行っている。訓練時に消火器使用の実践指導を受けている。今年度は8月22日に予定している。 ・緊急連絡網をスタッフルームに掲示している。	○	緊急時用の最小限の食糧・水・防寒備品等の備蓄を確保することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食量を記録している。水分摂取量は必要な利用者について記録している。摂食量に偏りのある利用者に対してはバランスよく摂取できる様支援している。</li> <li>・食材業者の栄養士による献立で、バランスのある栄養価、カロリー計算に配慮している。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所用の玄関ポストとは別に各フロア入口にポストを設け、職員が新聞を入れて利用者が取るようにし、生活感をもてるように工夫している。また、フロアの入り口が利用者にとって玄関であることを意識付けている。</li> <li>・居間の空間に冬はコタンを置き、夏はゴザを敷いて季節感を味わっている。季節の花や写真を飾っている。</li> <li>・車椅子用トイレがあり、複数で入浴できる広い浴室がある。</li> </ul>		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には使い慣れた箆笥・テレビ・ラジオ・仏壇等を持ち込み、家族の写真や本人の事業所でのスナップ写真等を飾っている。また、入口には手作りの暖簾が掛けられ和やかな雰囲気を作っている。</li> <li>・居室入口の小窓は内側から利用者の意思でカーテンで目隠しでき、プライバシーに配慮している。</li> </ul>		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

### ○記入方法

#### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

#### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

#### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

#### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家 川崎久地
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市高津区久地2-12-22
記入者名 (管理者)	大城基樹
記入日	平成 20 年 7 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・日常用品の買出しや理美容、外食等で地域の店を利用し、地域住民を対象とした将棋クラブ、卓球クラブ、映画鑑賞会等への利用者の参加もある。 ・行事を行う際には、町内会・子ども会の協力、共催を得られている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ホーム玄関とスタッフルームに理念を掲示している。 ・利用者と職員、地域との関係が理念に根差したものである様に、意見を交換し合い、補助しあえる関係の構築に努めている。 ・利用者の生活のあり様と職員の業務内容が理念に沿ったものであるかを、会議で確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・地域子供会の進級祝いとホームの記念行事を共催し、その場に御家族にも参加して頂いている。季節感を重視した催し物(盆踊り等)にて、利用者と御家族が共に楽しく過ごして頂ける企画を行っている。 ・専門医を招き、地域住民を対象とした認知症の勉強会を、町内会の協力の下ホームにて開催した。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や買い物等の外出時に挨拶をさせて頂いている。 ・地域住民の方を対象としたホームでの認知症勉強会にて、相談窓口や憩いの場として、当ホームを利用して頂きたい旨呼びかけさせて頂いた。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会の協力や子供会との共催にて、ホームの記念行事や、流しそうめん等の季節の行事を行っている。 ・地域の将棋クラブ、卓球クラブ、映画鑑賞会に利用者が気軽に参加しており、地域のガーデニングに利用者がボランティアとして協力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・町内会の協力の下、専門医を招いての認知症勉強会を地域住民の方を対象として行った。その際に、当ホームを介護福祉の相談窓口として御利用頂きたい旨も御案内させて頂いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の実施に際し、ホームの運営改善、向上の好機と捉え自己評価を行った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の実施にて、御家族のご意見、ご提案を募り、ホームの運営改善、サービスの向上に繋げている。 ・「グループホームを拠点として地域に向けた勉強会を開いて欲しい」との要望を受け、専門医を招いての認知症勉強会をホームにて行った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・生保担当者と必要に応じた連絡、相談を行っており、事故時の報告も行っている。 ・生保担当者が生保利用者に付き添い、通院させて下さった事もあり、協力体制が築けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修や勉強会にて様々の事案を学習可能で、得られた情報、知識は職員を対象とした勉強会にて共有している。 ・成年後見制度を利用、届出している利用者もいらっしゃり、実際のプロセスを職員も学習し、後見開始に必要な専門医の鑑定を得る為の主治医への取次ぎも行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者への対応で問題があれば職員全員で話し合い、改善策を模索、実施している。 ・各職員への聞き取り、個人面談を行い、虐待、その他の問題の防止、改善を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約内容の説明を確実に言い、御家族の話を十分に聞いた上での契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。 ・利用者同席のカンファレンスにて、御意見の聞き取りを行っており、ケア、介護計画に反映させている。 ・日常生活の中で、利用者が職員に意見を言える関係作りに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・写真を添え、普段の御様子、預かり金の使用状況を「一言通信」と題して毎月御家族に送付している。 ・健康状態に変化があれば、その都度連絡させて頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を開催し、御意見、御要望はホームの運営に反映させている。 ・御家族からの発信とそれに対する職員の対応は記録に残し、然るべき対応に繋げている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表や営業部のアドレスが公開されており、意見を寄せる事が出来る。 ・月一回のフロア会議の中で意見を出す機会があり、その意見によりホームの運営を改善させている。 ・職員が業務伝達に使用している「連絡ノート」に、業務、運営の改善の為の提案、意見交換の性格付けがある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・夕刻の不穏が起こり易い時間帯に人手を厚くしている。 ・緊急時には近隣在住職員の協力がある。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・一階～二階への職員異動があるが、一階、二階に日常生活を通しての交流があり、利用者や職員の関係が絶たれる事はない。 ・やむを得ず利用者や職員の関係が絶たれる場合、残った職員が、その利用者が安心出来る声掛け、説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・必要に応じた研修を行い、研修に参加した職員による、他の職員への伝達勉強会が行われている。 ・内外研修の案内が特定の場所に掲示されており、申し込みの意思があれば、シフトを調整する用意がある。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム協議会等から案内される各種研修等に参加することにより、同業者との情報交換やネットワークを構築する機会がある。</p>	<p>○ 同業者との意見交換の場を設け、互いに見学等が出来るような協力体制の構築</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・シフト作成に先んじ、制限付きではあるが希望休を設定出来る。 ・各職員に、面談による聞き取りを行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・個別面談で、本人の意見を聞きながら目標の設定を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・常に傾聴、様子観察を行っている。 ・御本人の発言、様子に留意し、集団の一員としての位置付けよりも、御本人のペースを大事にして生活して頂いている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用者のニーズとは別に、御家族のニーズにも着眼し、ホームとして対応出来る部分での検討を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・御家族からの御意見、御要望があれば記録に残し、ホームとして対応出来る事を検討、ニーズの充足に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・集団生活の中でも御自身のペースを大事にして頂き、発言、様子に留意しながら、常時どの様なケアが適切かを職員で検討している。ケアはまずお試しを実施し、御本人の意見、反応を確認した上で対応を決定している。 ・御家族からの情報提供や、馴染みの物をお持ち頂くことで、御本人が安心出来る環境を探っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・理念に掲げている事であり、利用者、職員を問わず各々が得意な分野を生かし、及ばぬ部分は補助し合い、喜びも衝突も内包して生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族会等を通し、ホームの運営に携わって下さっている。 ・家族の事情に耳を傾ける傍ら、利用者の対応に関し御意見を賜り、双方が協力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ホームで企画した行事に御家族も参加して頂く事で、利用者と交流する機会を増やしている。 ・疎遠な御家族へはホームでの暮らしをお伝えし、御意見、御要望を頂く事で、本人との関係を維持している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方が来ホームされた折には、職員からも利用者が喜んでおられる事をお伝えし、また来て頂ける様声掛けさせて頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・日常生活では各々が得意分野を生かし、外出時には体力に優れる方が他を助ける等、協力し合える状況や組み合わせを模索している。 ・孤立しがちな方であっても、その方のペースを尊重し、他利用者との衝突の回避や、関係性の拡大を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・施設探し等の、退去される際やされた後の、その方の必要とする情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・御本人同席のカンファレンスを行っており、要望や気持ちの把握の手段としている。日常の観察やカンファで得られた情報は、ケアプランに反映される。・意思の表現が困難な利用者に関しても同様のカンファレンスを行っており、表情や反応を観察して把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・実調や既往歴等の情報書類の他、御本人や御家族からお話を伺う事で、生活歴を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・見守りや観察により、利用者の事象に対する反応は生活記録に記され、その情報は伝達、共有されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・御本人や御家族からの聞き取りや、日々の観察から得られた情報を元に、カンファレンスやフロア会議等で、その方の望み、必要とするサービスやケアについて話し合っている。・カンファレンス時に「お試し」を設定し、その方の可能性や、安らかに暮らせる方法を模索している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・課題に対した定期的見直し以外にも、入院や日常生活動作の低下等、対応の変化が求められる際に見直しを行っている。御本人や御家族の意向も見直しに反映させている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に沿ったケアを行い、利用者の言葉、表情、行動等、事象に対する反応を記録している。 ・日頃の観察にて得られた気づきや情報を、カンファやフロア会議にて新たなケア、お試しに繋げ、その試行に対する利用者の反応も記録され、計画の見直しに反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・御家族が希望される理美容への連れ出しや、御本人の要望に応じて外出、外食、銭湯での入浴等を行っている。 ・御本人の趣味に応じ、将棋クラブや卓球クラブ、映画鑑賞会等、地域のサークルにも参加して頂いている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・消防署職員立会いでの防火訓練を行っている。 ・ボランティアの訪問があり、定期的な腹話術師や移動パン屋等の訪問は利用者にも定着している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ホーム職員が付き添い、地域デイサービスを利用するなど、利用者の必要に応じてホーム外でのサービスも受けられる様支援している。	○	地域のケアマネジャー、サービス事業者とのネットワークの構築。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議にて、地域包括支援センター員に出席して頂いており、個々の事例について協議している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族の了承を得、月二回の往診医診察を行っている。 ・往診医の診察以外にも、必要、御家族の希望に応じ、御家族対応にてかかりつけ医の診察を受けて頂いている。 ・定期の往診時以外にも、利用者の体調の変化は往診医に連絡し、指示を得ている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・記録や職員間の業務連絡、申し送り等では、個人名を用いず、イニシャルを使用して個人情報、プライバシーに配慮している。 ・個人の尊厳を損ねる言葉掛けは行わず、職員の対応に問題があれば、個人面談や会議等で改善に取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・カンファで意見や希望の聞き取りを行っているが、日頃の利用者との会話の中でも引出しを試みている。 ・自発、自主性を引き出す事を目標として、声掛けやサービスを行っており、その方が何に興味、喜びを見出せるのか観察を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・就寝時間や入浴日を設定せず、その方のペースや意向に沿って生活して頂いている。 ・利用者の様子や直接的な要求により、求められるケアや予定の変更等を行い、何をしたいのか、何をしたくないのかに留意している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	・職員同伴、或いは家族対応にて、御本人の希望する理美容店を利用して頂いている。 ・今まで使用されてきた化粧品を利用して頂いたり、紅をひいたりして頂いている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・御本人の能力や自主性により、各々役割を持って皿出しから盛り付け、片付けに至るまで担当して頂いている。 ・週に二回、調理日を設定しており、食材の下準備から調理まで、職員と利用者が協力して行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・御本人の好みの食べ物を買う為に外出したり、外食に出掛けたりしている。 ・作りたいもの、食べたい物を募り、おやつ作りを行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・最終排泄時間、パターンを把握し、誘導が必要な場合はさりげない声掛けを行っている。 ・排泄パターンの把握と、声掛け誘導を実施する事で、可能な限りパットやオムツを使用しないケアを心掛けている。 ・無理なトイレ誘導は行わず、本人の意向に沿う形での誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・特に入浴日は定めず、入りたい時に入ってもらえる様支援している。 ・仲の良い方同士入浴して頂いたり、時には銭湯を利用するなどして、入浴そのものを楽しんで頂ける様にしている。 ・無理に入浴促しはせず、御本人の望むタイミングで誘導を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・就寝時間を定めず、御本人の望む時間帯に就寝介助を行っている。 ・日中の活動を活発にする事で夜間の良眠に繋げている。 ・就寝前の落ち着いた雰囲気作りに努め、お茶の時間を設けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・能力や得意分野、御本人の自主性により、各々ホームでの役割を持って頂いており、役立っているという喜びと、支え合っているという認識を持って頂けるよう支援している。 ・御本人の活動範囲をホーム内に限定せず、個別ケアの実施により、ホームから離れた場所で、望む事をして頂ける様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人でお金を管理しておられる方も居り、そのお金で買い物もして頂いている。 ・買い物時、希望する物を買って頂き、職員見守りの下で各自清算して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物や散歩、理美容、飲食店の利用の為の外出の他、地域のボランティア活動や、卓球、将棋クラブ等へ参加する為の外出支援も行っている。 ・外出する方の組み合わせにも配慮し、楽しく外出して頂けるよう工夫している。 ・ご本人の希望や、帰宅願望による突発的な外出も行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・バスハイクによる長距離、小旅行を定期的に行い、行き先の希望も利用者に伺っている。 ・個別ケアにて、外食や買い物、銭湯等、本人の望む外出を行っている。 ・御家族対応で、御家族の都合に合わせて外出、外食して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年末には、年賀状を御本人から家族宛に出している。御家族から頂いた手紙は、御本人の居室にて保管されている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間を設ける事無く、何時でも来訪して頂いている。 ・面会者とはゆっくり居室で過ごして頂き、お茶を飲んで頂く等して、落ち着いた雰囲気、開かれたホーム作りを目指している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束ゼロ推進を掲げ、問題意識の共有、意識向上を図っている。 ・会議、カンファレンスで話し合い、拘束しないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室、窓に鍵は掛けておらず、自由に出入りが出来る。 ・居室は内側から掛ける鍵しか無く、施錠は本人の意思に委ねられている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・一日を通して、利用者の所在を見失わない様努め、職員同士の声掛け、見守りにより利用者の位置や安全を確認している。 ・居室で休んでおられる時は、時々巡回し、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者の様子、器物の扱い方を観察し、職員同士で話し合いをした上で、危険、不衛生と判断された場合に器物を回収、保管している。 ・取り扱いに注意を要するものを利用者が使用する際は、職員が付き添い、見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒、誤薬、行方不明等の事故は、事故報告書に記入され、事故発生の原因の分析と、再発防止の検討が行われる。それを掲示する事で、問題意識と情報の共有を図っている。 ・会議、カンファ等で利用者の状態を確認し、危険の予知や、環境整備等の危険防止策を検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時用ダイヤルが掲示されており、異変時は往診医の支持を仰ぎ対応を行っている。 ・緊急、事故発生時のマニュアルがある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署職員立会いで防火・防災訓練を行っており、職員の防災意識、技術を培うとともに、利用者の避難能力等を確認している。 ・運営推進会議等で、災害時の避難場所の確認や、町内会の災害対策に関する取り組みの情報交換を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・家族面会時や電話連絡にて、利用者の状態や起こり得るリスクについて報告し、対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・定時のバイタルチェックの他、継続した様子観察により異変が認められれば、職員で話し合い対応を決めている。 ・必要があれば、往診医へ報告し指示を得ている。 ・必要事項は連絡ノートに記入され、往診医とのファックスのやり取りがあれば掲示することで、情報の共有がなされている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局より、薬の効能や注意事項、利用者にも与える影響についての説明があり、疑問や質問があればその場で薬局員に確認する事ができる。 ・往診医からの指示書、薬変更一覧表は必ず掲示され、皆が把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・運動や水分摂取を積極的に促す事が、便秘の予防にも繋がっている。ヨーグルト等の乳酸菌を摂って頂く事での予防も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・口腔ケア、歯磨きは毎食後行っており、その方の衛生保持能力に応じて職員が見守り、介助を行っている。 ・歯痛や、義歯等に問題があれば、御家族の了承を得た上で歯科往診医の治療に繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事は記録用紙にチェックし、水分量の把握が必要な利用者に関しては個別に記録している。 ・食事や水分摂取時、方寄りのある食べ方をされている方には声掛けし、バランスよく摂って頂く様にしている。 ・専門業者の栄養士による献立で、栄養面にも配慮されている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・マニュアルがあり、スタッフルームに常備されている。 ・トイレ後、食事前、歯磨き後、外出から戻られた際に手洗いをして頂き、習慣付いて頂ける様支援している。 ・ジアノック希釈液を常備し、清掃時や汚物処理時に使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・定期的に冷蔵庫の清掃を行い、食材の管理を行っている。 ・衛生管理表に従い、毎食後の布巾消毒や流し台の清掃を毎日行っている。 ・利用者に提供する麦茶やスポーツ飲料の容器、冷凍した食材には作った日の日付を記入し、古い物が残らないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関に、花を植えたプランターやベンチを設置し、親しみやすく、実用的な空間となっている。 ・玄関先のゴミ置場は表から見えず、害鳥対策のかごや網を設置し、見苦しいことの無い様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロア入口にはポストを設置し、毎朝新聞を入れる事で、そこが共有の玄関であると言う事の意識付けを行っている。 ・フロアの一空間に、冬はコタツを設置し、夏はゴザを敷き、実際にくつろいで頂く傍ら季節感を演出している。 ・季節の花や写真を掲示することで、和やかな雰囲気作りを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・並んで座れるソファを複数設置しており、カーペットやゴザを敷くことで胡坐をかいて座れる空間もある。玄関先やベランダにもベンチがあり、お一人で過ごして頂ける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇、箆筒、テレビやラジオ等、使い慣れた馴染みの物を使用して頂いている。 ・居室扉の小窓は目隠しされ、プライベートに配慮されている。 ・家族の写真や行事の写真、ホームからの贈り物等を置き、和やかな雰囲気となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎日居室の扉を開け、換気を行っている。 ・空調の温度調節を利用者の声に留意しながら行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・その時々利用者の状態に合わせて、危険を回避出来る様に、また、利用者の動きを補助できるように、家具の設置や除去等、環境の整備を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室入口に個別ののれんや名札がかかっており、他の居室との差別化がなされている。トイレもわかり易いように、「お手洗い」と大きく扉に貼り出されており、視覚に訴える工夫がされている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・洗濯物干し等の家事の場としてだけでなく、ベンチやプランターを設置する事によって落ち着いた雰囲気を演出し、また実際にくつろげる様にしている。小さな畑もあり、収穫も行われている。 ・屋外専用のテーブルや椅子があり、屋外で食事やお茶を楽しむ事が出来る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所して二年、利用者の入れ替わりや状態の変化を経験してきたが、いままで築き上げてきた活動的な雰囲気や地域との関係性を、これからも積極的に発展させていくことで、利用者と職員が共にその人らしく、穏やかに過ごせるホームを模索していきたい。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

### ○記入方法

#### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

#### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

#### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

#### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家 川崎久地
(ユニット名)	2ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市高津区久地2-12-22
記入者名 (管理者)	大城基樹
記入日	平成 20年 7月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・日常用品の買出しや理美容、外食等で地域の店を利用し、地域住民を対象とした将棋クラブ、卓球クラブ、映画鑑賞会等への利用者の参加もある。 ・行事を行う際には、町内会・子ども会の協力、共催を得られている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・ホーム玄関とスタッフルームに理念を掲示している。 ・利用者と職員、地域との関係が理念に根差したものである様に、意見を交換し合い、補助しあえる関係の構築に努めている。 ・利用者の生活のあり様と職員の業務内容が理念に沿ったものであるかを、会議で確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・地域子供会の進級祝いとホームの記念行事を共催し、その場に御家族にも参加して頂いている。季節感を重視した催し物(盆踊り等)にて、利用者と御家族が共に楽しく過ごして頂ける企画を行っている。 ・専門医を招き、地域住民を対象とした認知症の勉強会を、町内会の協力の下ホームにて開催した。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・外出の際、犬を散歩されている方、学校帰りの小学生等挨拶をして下さり、こちらからも声を掛け、お庭の花を見せて頂いたり、買い物先で店員の方と会話をしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・町内会の協力や子供会との共催にて、ホームの記念行事や、流しそうめん等の季節の行事を行っている。 ・地域の将棋クラブ、卓球クラブ、映画鑑賞会に利用者が気軽に参加しており、地域のガーデニングに利用者がボランティアとして協力している。</p>	<p>○ ・生け花や習字の地域サークルもあるとの事で、今後参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・町内会の協力の下、専門医を招いての認知症勉強会を地域住民の方を対象として行った。その際に、当ホームを介護福祉の相談窓口として御利用頂きたい旨も御案内させて頂いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の実施に際し、ホームの運営改善、向上の好機と捉え自己評価を行った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の実施にて、御家族のご意見、ご提案を募り、ホームの運営改善、サービスの向上に繋げている。 ・「グループホームを拠点として地域に向けた勉強会を開いて欲しい」との要望を受け、専門医を招いての認知症勉強会をホームにて行った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・生保担当者と必要に応じた連絡、相談を行っており、事故時の報告も行っている。 ・生保担当者が生保利用者に付き添い、通院させて下さった事もあり、協力体制が築けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修や勉強会にて様々の事案を学習可能で、得られた情報、知識は職員を対象とした勉強会にて共有している。 ・成年後見制度を利用、届出している利用者もいらっしゃり、実際のプロセスを職員も学習し、後見開始に必要な専門医の鑑定を得る為の主治医への取次ぎも行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者への対応で問題があれば職員全員で話し合い、改善策を模索、実施している。 ・各職員への聞き取り、個人面談を行い、虐待、その他の問題の防止、改善を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約内容の説明を確実に言い、御家族の話を十分に聞いた上での契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。 ・利用者同席のカンファレンスにて、御意見の聞き取りを行っており、ケア、介護計画に反映させている。 ・日常生活の中で、利用者が職員に意見を言える関係作りに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・写真を添え、普段の御様子、預かり金の使用状況を「一言通信」と題して毎月御家族に送付している。 ・健康状態に変化があれば、その都度連絡させて頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を開催し、御意見、御要望はホームの運営に反映させている。 ・御家族からの発信とそれに対する職員の対応は記録に残し、然るべき対応に繋げている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表や営業部のアドレスが公開されており、意見を寄せる事が出来る。 ・月一回のフロア会議の中で意見を出す機会があり、その意見によりホームの運営を改善させている。 ・職員が業務伝達に使用している「連絡ノート」に、業務、運営の改善の為の提案、意見交換の性格付けがある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・夕刻の不穏が起こり易い時間帯に人手を厚くしている。 ・緊急時には近隣在住職員の協力がある。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・一階～二階への職員異動があるが、一階、二階に日常生活を通しての交流があり、利用者や職員の関係が絶たれる事はない。 ・やむを得ず利用者や職員の関係が絶たれる場合、残った職員が、その利用者が安心出来る声掛け、説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・段階に応じた社内研修、フロア長交換研修やケアプラン評価の為の勉強会も行っており、外部の研修の案内に申し込み、受講する事も出来る。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム協議会等から案内される各種研修等に参加することにより、同業者との情報交換やネットワークを構築する機会がある。</p>	<p>○ 同業者との意見交換の場を設け、互いに見学等が出来るような協力体制の構築</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・個別の面談による聞き取りがあり、喫煙所等の息抜き場所もある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・個別面談で、本人の意見を聞きながら目標の設定を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・常に傾聴、様子観察を行っている。 ・御本人の発言、様子に留意し、集団の一員としての位置付けよりも、御本人のペースを大事にして生活して頂いている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・家族が困っている事や、不安な事等、話し易い雰囲気作りをし、受け止める努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・御家族からの御意見、御要望があれば記録に残し、ホームとして対応出来る事を検討、ニーズの充足に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・集団生活の中でも御自身のペースを大事にして頂き、発言、様子に留意しながら、常時どの様なケアが適切かを職員で検討している。ケアはまずお試しを実施し、御本人の意見、反応を確認した上で対応を決定している。 ・御家族からの情報提供や、馴染みの物をお持ち頂くことで、御本人が安心出来る環境を探っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の人生経験、知識、それぞれの得意分野を生かし、傾聴しながら、同じ生活者という視点で関係作りを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族会等を通し、ホームの運営に携わって下さっている。 ・家族の事情に耳を傾ける傍ら、利用者の対応に関し御意見を賜り、双方が協力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ホームで企画した行事に御家族も参加して頂く事で、利用者と交流する機会を増やしている。 ・疎遠な御家族へはホームでの暮らしをお伝えし、御意見、御要望を頂く事で、本人との関係を維持している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方が来ホームされた折には、職員からも利用者が喜んでおられる事をお伝えし、また来て頂ける様声掛けさせて頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・日常生活では各々が得意分野を生かし、外出時には体力に優れる方が他を助ける等、協力し合える状況や組み合わせを模索している。 ・孤立しがちな方であっても、その方のペースを尊重し、他利用者との衝突の回避や、関係性の拡大を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・施設探し等の、退去される際やされた後の、その方の必要とする情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・御本人同席のカンファレンスを行っており、要望や気持ちの把握の手段としている。日常の観察やカンファで得られた情報は、ケアプランに反映される。・意思の表現が困難な利用者に関しても同様のカンファレンスを行っており、表情や反応を観察して把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者、御家族との信頼関係を保ち、それぞれのお話を伺い、ファイル等にも目を通し情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者と共に過ごし、生活パターンや変化、有する能力や心身状態等を記録に残し、現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・御本人や御家族からの聞き取りや、日々の観察から得られた情報を元に、カンファレンスやフロア会議等で、その方の望み、必要とするサービスやケアについて話し合っている。・カンファレンス時に「お試し」を設定し、その方の可能性や、安らかに暮らせる方法を模索している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・課題に対する定期的見直し以外にも、入院や日常生活動作の低下等、対応の変化が求められる際に見直しを行っている。御本人や御家族の意向も見直しに反映させている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に沿ったケアを行い、利用者の言葉、表情、行動等、事象に対する反応を記録している。 ・日頃の観察にて得られた気づきや情報を、カンファやフロア会議にて新たなケア、お試しに繋げ、その試行に対する利用者の反応も記録され、計画の見直しに反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・御家族が希望される理美容への連れ出しや、御本人の要望に応じて外出、外食、銭湯での入浴等を行っている。 ・御本人の趣味に応じ、将棋クラブや卓球クラブ、映画鑑賞会等、地域のサークルにも参加して頂いている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・消防署職員立会いでの防火訓練を行っている。 ・ボランティアの訪問があり、定期的な腹話術師や移動パン屋等の訪問は利用者にも定着している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ホーム職員が付き添い、地域デイサービスを利用するなど、利用者の必要に応じてホーム外でのサービスも受けられる様支援している。	○	・地域のケアマネジャー、サービス事業者とのネットワークの構築。 ・地域のデイサービスにも参加したい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議にて、地域包括支援センター員に出席して頂いており、個々の事例について協議している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族の了承を得、月二回の往診医診察を行っている。 ・往診医の診察以外にも、必要、御家族の希望に応じ、御家族対応にてかかりつけ医の診察を受けて頂いている。 ・定期の往診時以外にも、利用者の体調の変化は往診医に連絡し、指示を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・記録や職員間の業務連絡、申し送り等では、個人名を用いず、イニシャルを使用して個人情報、プライバシーに配慮している。 ・個人の尊厳を損ねる言葉掛けは行わず、職員の対応に問題があれば、個人面談や会議等で改善に取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・カンファで意見や希望の聞き取りを行っているが、日頃の利用者との会話の中でも引出しを試みている。 ・自発、自主性を引き出す事を目標として、声掛けやサービスを行っており、その方が何に興味、喜びを見出せるのか観察を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・就寝時間や入浴日を設定せず、その方のペースや意向に沿って生活して頂いている。 ・利用者の様子や直接的な要求により、求められるケアや予定の変更等を行い、何をしたいのか、何をしたくないのかに留意している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・本人の希望で化粧水等の補充や本人の望む店(美容室)に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・御本人の能力や自主性により、各々役割を持って皿出しから盛り付け、片付けに至るまで担当して頂いている。 ・週に二回、調理日を設定しており、食材の下準備から調理まで、職員と利用者が協力して行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・御本人の好みの食べ物を買う為に外出したり、外食に出掛けたりしている。 ・作りたいもの、食べたい物を募り、おやつ作りを行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・最終排泄時間、パターンを把握し、誘導が必要な場合はさりげない声掛けを行っている。 ・排泄パターンの把握と、声掛け誘導を実施する事で、可能な限りパットやオムツを使用しないケアを心掛けている。 ・無理なトイレ誘導は行わず、本人の意向に沿う形での誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・特に入浴日は定めず、入りたい時に入って頂ける様支援している。 ・仲の良い方同士入浴して頂いたり、時には銭湯を利用するなどして、入浴そのものを楽しんで頂ける様にしている。 ・無理に入浴促しはせず、御本人の望むタイミングで誘導を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・就寝時間を定めず、御本人の望む時間帯に就寝介助を行っている。 ・日中の活動を活発にする事で夜間の良眠に繋げている。 ・就寝前の落ち着いた雰囲気作りに努め、お茶の時間を設けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・畑(野菜)作り等、御本人の生活歴や力を生かし、興味、趣味を大切にしながら楽しめるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・各利用者のお金を預かっている事を伝え、必要とする物や希望するものを買物時に買って頂き、御自分でお金を使う用に支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物や散歩、理美容、飲食店の利用の為の外出の他、地域のボランティア活動や、卓球、将棋クラブ等へ参加する為の外出支援も行っている。 ・外出する方の組み合わせにも配慮し、楽しく外出して頂けるよう工夫している。 ・ご本人の希望や、帰宅願望による突発的な外出も行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・バスハイクによる長距離、小旅行を定期的に行い、行き先の希望も利用者に伺っている。 ・個別ケアにて、外食や買い物、銭湯等、本人の望む外出を行っている。 ・御家族対応で、御家族の都合に合わせて外出、外食して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・御家族から電話があった時は御本人に出て頂き、利用者が職員に手紙を書いて下さる事もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間を設ける事無く、何時でも来訪して頂いている。 ・面会者とはゆっくり居室で過ごして頂き、お茶を飲んで頂く等して、落ち着いた雰囲気、開かれたホーム作りを目指している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束ゼロ推進を掲げ、問題意識の共有、意識向上を図っている。 ・会議、カンファレンスで話し合い、拘束しないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室、窓に鍵は掛けておらず、自由に出入りが出来る。 ・居室は内側から掛ける鍵しか無く、施錠は本人の意思に委ねられている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・一日を通して、利用者の所在を見失わない様努め、職員同士の声掛け、見守りにより利用者の位置や安全を確認している。 ・居室で休んでおられる時は、時々巡回し、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者の様子、器物の扱い方を観察し、職員同士で話し合いをした上で、危険、不衛生と判断された場合に器物を回収、保管している。 ・取り扱いに注意を要するものを利用者が使用する際は、職員が付き添い、見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒、誤薬、行方不明等の事故は、事故報告書に記入され、事故発生の原因の分析と、再発防止の検討が行われる。それを掲示する事で、問題意識と情報の共有を図っている。 ・会議、カンファ等で利用者の状態を確認し、危険の予知や、環境整備等の危険防止策を検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時用ダイヤルが掲示されており、異変時は往診医の支持を仰ぎ対応を行っている。 ・緊急、事故発生時のマニュアルがある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署職員立会いでの防火・防災訓練を行っており、職員の防災意識、技術を培うとともに、利用者の避難能力等を確認している。 ・運営推進会議等で、災害時の避難場所の確認や、町内会の災害対策に関する取り組みの情報交換を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・家族面会時や電話連絡にて、利用者の状態や起こり得るリスクについて報告し、対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・定時のバイタルチェックの他、継続した様子観察により異変が認められれば、職員で話し合い対応を決めている。 ・必要があれば、往診医へ報告し指示を得ている。 ・必要事項は連絡ノートに記入され、往診医とのファックスのやり取りがあれば掲示することで、情報の共有がなされている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局より、薬の効能や注意事項、利用者にも与える影響についての説明があり、疑問や質問があればその場で薬局員に確認することができる。 ・往診医からの指示書、薬変更一覧表は必ず掲示され、皆が把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・運動や水分摂取を積極的に促す事が、便秘の予防にも繋がっている。ヨーグルト等の乳酸菌を摂って頂く事での予防も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・口腔ケア、歯磨きは毎食後行っており、その方の衛生保持能力に応じて職員が見守り、介助を行っている。 ・歯痛や、義歯等に問題があれば、御家族の了承を得た上で歯科往診医の治療に繋げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇、箆筒、テレビやラジオ等、使い慣れた馴染みの物を使用して頂いている。 ・居室扉の小窓は目隠しされ、プライベートに配慮されている。 ・家族の写真や行事の写真、ホームからの贈り物等を置き、和やかな雰囲気となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎日居室の扉を開け、換気を行っている。 ・外気との温度差が激しくならない様配慮し、状況に応じて空調で調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・その時々利用者の状態に合わせて、危険を回避出来る様に、また、利用者の動きを補助できるように、家具の設置や除去等、環境の整備を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室入口に個別ののれんや名札がかかっており、他の居室との差別化がなされている。トイレもわかり易いように、「お手洗い」と大きく扉に貼り出されており、視覚に訴える工夫がされている。 ・利用者によっては、フロアから居室までの床をテープでライン引きし、視覚的に誘導出来るようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・一階ユニットと比ベスペースが狭いが、プランターに花を生けたり、小さな椅子を置くなどしてくつろげるようにしている。また、テーブルを出して食事やおやつを楽しんで頂いている。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出や買い物等を積極的に行い、地域の方との交流を大切に、一緒に行事等を行っている。ユニット利用所の高いADLを生かし、より活動範囲を広げるとともに、利用者同士がその人らしくありながらも良好な関係を築いていけるように支援していきたい。